

とにかく明るい性教育

パンツの教室

受講生用テキスト

PTA会員の皆様

世田谷区立芦花小学校
PTA会長 戸田 悠介
文化厚生委員長 新井 絵美
う、子の成長」

平成30年度テーマ「学び合い、喜び合お



第1回 家庭教育学級 報告書

親から子へ伝える とにかく明るい性教育



保護者の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。子どもたちの健やかな成長のため、本校PTA活動に際しまして皆様のご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて7月5日（木）に、元泌尿器科の看護師であり三姉妹の母でもある、「とにかく明るい性教育 パンツの教室」主宰の、のじま なみ先生を講師にお迎えし、第1回家庭教育学級を開催いたしました。当日は、小・中学校職員室前会議室がほぼ満席となる、120名の保護者の皆様にご参加いただきました。のじま先生は全国各地でパンツの教室を開催し、性教育の重要性、特に子どもにとって一番身近な親が性教育をすることの大切さを伝える活動をされているほか、各メディアにも多数ご出演されています。

近年、性教育がタブー視されるなか、何も知らない子どもたちが性犯罪に巻き込まれる事件が後を絶ちません。また、インターネットの普及により、自分で簡単に性に関する情報を入手し、誤った知識を得てしまう危険にさらされています。今回の講義では、子どもたちが誤った知識をもったまま社会に出ないようにするためには、性教育がとても大切であることを教えていただきました。

導入部では、先生がご自身のお父様から愛とユーモア溢れる性教育を受けて育たれたお話や、お子様方とのエピソードを大らかに楽しく語っていただき、どうしても構えてしまいがちな内容をリラックスして聞けるように促してくださいました。また、子どもたちの思春期の到来が早まっているなか、それより早く性の情報に触れる可能性がある知識先行の危うさを、実際に出席者がスマートフォンでウェブ検索して実感する機会をいただきました。

～以下、のじま先生からお伝えいただいたキーワードの一部をご紹介します～

- ◆性教育には「一度きり」ルールがある → 子どもの質問に親が困った顔をするとう二度と話さなくなります。
- ◆知識こそ「おまもり」になる → 自分の身を守ることと同時に人の心や体を傷つけないことに繋がります。
- ◆性犯罪者が狙う子とは？（性犯罪者へのアンケートより） → 身なりが派手な子？おとなしそうな子？
…ではなく、「自分に似た子」。性教育を受けていない知識のない子は「直感で分かる」とのことです。
- ◆子どもと性について語れるようになるための3ナッシング
①逃げない ②怒らない ③ごまかさない
- ◆性教育は「外部委託できない」 → 性教育は子どもの人生を左右するほど大切な知識を作るものであり、役立つ科学です。しかし学校教育だけでは限界があり、習い事のように外部委託もできません。
- ◆子どもと性について語れるようになるための魔法のフレーズ
「いい質問だね！」 → 何か子どもが質問をしてきたとき、まずはこの一言を。答える前にひと呼吸つくことがで

きます。また「どうして聞くの?」「どうかしたの?」と次の会話に繋がり、質問の背景を導けます。

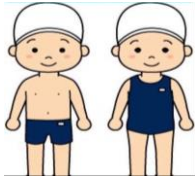
◆性教育のゴールとは?

「思春期になったときに笑いながら性の話ができること」→子どもとの信頼関係が築けているということ。
性の話ができないと、とても大切な性感染症予防についての話できません。

◆いつから性教育を始める?

「パンツをおもらしなどで汚す3歳～10歳くらい」→パンツを自分で洗わせて親子で性について語り合うきっかけにしてください(=『パンツの教室』の由来)。思春期になってからでは、子どもは聞いてくれません!

◆水着ゾーンとは?・・・他人に見せても、触らせてもいけない、自分だけの大事な場所 ◆



- ・自分の水着ゾーンを見せたり触らせたりする人
- ・相手の水着ゾーンを見たがったり触りたがったりする人



そんな人がいたら、大声で叫んで逃げること!

水着で隠れる部分+口(くち) 同性同士でも友達同士でもだめ。見たくない人がいることを理解させること。

◆性教育とは…「誰かを(異性を)思いやる、いたわりの心」を育て、
誰かの一生を左右するような行為をしたり、言葉を浴びせたりしない
という、最低限のルールを教えること。

これは、自分の命はもちろん、人の命を大切にすることに繋がります。

★講演を聞いて★(アンケートより抜粋)

- ・性教育だけは、家庭でしかできないという言葉にはっとさせられました。
- ・自分が思っていたよりもかなり低年齢の子どもたちが性に興味をもっていることにびっくりしました。
- ・性犯罪の犯人のアンケート結果にもものすごく興味がありました。もっと聞きたかった。水着ゾーン、さっそく伝えていきたいと思います。
- ・自分が子どもの頃は親と性について話すことがなかったのですが、今の時代はそれではとても渡っていけないのだな、と思い知らされました。どうしても逃げたりごまかしたりしたくなるテーマですが、しっかり子どもと向き合って、異性を思いやることのできる人になって欲しいと思います。
- ・丁度子どもたちから「赤ちゃんってどうやって出てくるの?」と聞かれて、その際に「お腹はきったの?」「ちがうよ」「じゃあ、どこ!？」と言われ苦笑いしたばかりだったので、これから一緒に楽しく話していけそうです!
- ・男の子二人の親ですが、異性の体についての知識や思いやりの心をどう伝えるか考えることが多かったので、ストレートな言葉、上手な伝え方のお話は大変勉強になりました。先生方や、お父さんにもぜひ知ってほしい内容でした。
- ・身近な話、ご自身のお子さんとのエピソードと、データを交えて話して下さったのでとてもリアリティがあり、理解しやすかった。学校教育でももっと積極的に、実態に即した性教育を行ってほしい。

<講演内容について無回答の方を除く全員にあたる9割の方が、「非常に良かった」「良かった」とご回答くださいました。>

お忙しいなか、参加して下さった皆様、お手伝いをして下さった皆様、本当にありがとうございました。

★★★ 次回 第2回家庭教育学級の予定 ★★★

9月13日(木) 11時30分(受付)～13時30分の予定

講師: 芦花小学校栄養士 富川 紗知 先生 すてきな講演と美味しい給食試食を予定しております。

